

令和3年度 事業計画（案）

I 事業方針

2015年に第3回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定され次第、世界では防災の機運がこれまでになく高まっていますが、未だに相次ぐ大災害の発生を食い止めることには成功していません。地球温暖化に伴う気候変動の影響は既に顕在化し、今後更に災害リスクが高まる恐れもある中、解決のための具体的な適応策の実施はもはや待ったなしの状況となっています。また、COVID-19の世界的なパンデミックは、感染症の蔓延であり大災害の発生と事象こそ違いますが、従来の社会の仕組みや生活がいかに脆弱かということをあぶりだしました。

一般財団法人 世界防災フォーラムは、東日本大震災や世界の大災害からの経験や教訓をもとに、産学官民での防災ソリューションの追求や国際的に共有することにより、防災(BOSAI) という概念の薄い国や地域に対し、防災・減災・復興の考え方を政策や社会・文化に浸透させ、「災害で苦しむ人をなくす」という目的の実現に邁進します。

具体的にはBOSAIをより人々の身近なものにするために、人々が持つ防災のイメージを変えていきます。防災はもちろん重要ですが、ともすると、「しなければならない、固い、暗い、面白くはない、ネガティブな灰色のイメージ」になってしまいます。そうすると専門家や活動家だけが盛り上がり、緊急時を除けば一般の人たちにとって興味を持ってもらえないことになりがちです。世界防防災フォーラムでは、この壁を取り払って防災を面白くしていきたいと考えています。まず、市民に興味をもってもらえることこそBOSAIの入り口として重要だと考えています。今年度は様々な人々が興味を持てるBOSAIの浸透を主眼に事業を推進します。

II 個別事業

1. 公益事業

(1) 情報発信事業

【World Bosai Walk, Tohoku+10 の実施】

2021年は第3回世界防災フォーラムの実施予定であり、東日本大震災10年目の節目にビルドバックベターの様子を世界に発信するいい機会でありました。しかしながら、COVID-19のパンデミックにより従来型の国際イベントの開催は困難になり、2022に延期することと致しました。

そこで、世界防災フォーラムでは、パンデミック下でも実施可能なイベントとして、福島いわき市から青森県八戸市まで徒歩で踏破し、その土地にすみ復興に取り組む人々、災害の記憶を後世に伝えようとしている方々などに「人」と「ビルドバックベター」に焦点をあて、

その様子を世界に発信していく「World Bosai Walk, Tohoku+10」を企画しました。

「World Bosai Walk, Tohoku+10」では①実際に沿岸部を歩くウォーク、②NPOや人、企業や学術の成果や取り組みを発表するサイドイベントの実施、③SNSやコンテンツ作成（動画）を通じた情報発信、といった3つの事業で構成されています。

2021年度はこの「World Bosai Walk, Tohoku+10」を事業の中心に据え、世界に向けてBOSAIの啓蒙や普及に尽力致します。

【第3回世界防災フォーラムの準備（2022開催予定）】

スイスの防災ダボス会議と連携し、専門家だけでなく国内外から産・官・学・民の防災関係者が広く集まる仙台発の国際フォーラムを開催しています。東日本大震災に関する知見の共有や防災の具体的な解決策の創出等を踏まえ、「仙台防災枠組2015-2030」の推進及び「BOSAI」の取り組みを世界に広げることを目指しています。

2017年の初会合では、42ヶ国・地域から947名の方が参画した「市民参加型国際会議」として大成功を収めました。2回目は2019年に実施、隔年開催の第3回は2021年開催予定でしたが、COVID-19のパンデミックの影響で1年延期することになりました。

第3回ではパンデミックを踏まえ、災害と感染症対策や感染症適応について大きな議題として取り上げる予定です。さらにパンデミック後の世界に対応した国際フォーラムとして、ICTを活用したバーチャル参加など、より安全、より多くの賛同者が参加できるよう工夫を凝らしてまいります。

また、「World Bosai Walk, Tohoku+10」の経験を活用し、市民からBOSAIがより興味を持っていただけるよう、企画内容や参加費用などあらゆる面で市民に親しみやすい国際フォーラムを目指します。特に、世界防災フォーラムでは、防災文化の醸造を大切にしています。虎舞や獅子舞等の地域の民俗芸能、コーラス、オーケストラやブラスバンドなどの音楽、歴史的遺産等々、防災が文化という形に昇華されることで、長く忘れずに記憶することができるものと考えます。世界中でこのような防災文化の活動のネットワークを築きBOSAIを市民目線に近づけることは世界防災フォーラムの重要なミッションの一つです。

【世界防災関連博物館のネットワーク構築事業】

博物館は市民が防災を身近に感じられる施設としてとても重要な意味を持っています。しかし、現状では世界の博物館リストや、博物館同士のネットワークは存在していないのが実情です。博物館同士のコミュニケーションの場や、展示物をバーチャルに共有できるような仕組みを作り、市民の方にとってより親しみやすい博物館作りを支援することで「BOSAI」の啓蒙を図ります。

(2) 調査研究事業

【G D B 運営支援事業】

防災・減災・復興の考え方を世界各国の政策や社会・文化に浸透させるためには、災害や経済等に与える影響を、一般的にわかりやすい形で示す必要があります。特に仙台防災枠組のグローバルターゲット達成のために、各国が整備する災害被害統計とリンクした東北大学災害科学国際研究所に設置された災害統計グローバル統計センターの活動を支援し、その成果を報告書という形で定期的に発表してまいります。

【途上国の災害リスクの軽減プロジェクト（バングラデッシュのトルネード災害の軽減）】

まずバングラデッシュを取り掛かりに現場でBOSAIの理念を広げる実践を図ってまいります。バングラデッシュの気象庁、バングラデッシュ防災センター、世界風工学会等と連携し、ICTを駆使したトルネードの警報システムの導入と、住民が命を守ることを可能にするトルネード・シェルターの普及を目指したプロジェクトに取り組んでまいります。

2. 収益事業

令和3年度は現在のところ収益事業を実施する予定はありません。

III 運営基盤の強化について

令和2年度については、COVID-19パンデミックにより、活動を縮小せざるを得ませんでした。令和3年度は継続した事業の実施のために、以下の点で運営基盤の強化を図ってまいります。

1. 財務

支援者とのコミュニケーションを増やし、会員制度や寄付メニューを整備することにより、財務基盤の安定を実現する。

2. 体制

令和2年度は、財団の直接雇用でパートタイムの職員を採用した。財務面の安定を条件にフルタイム雇用の職員を1名採用し、「World Bosai Walk, Tohoku+10」や2022年実施予定の第3回世界防災フォーラムの準備にあたらせたい。

3. 広報活動

財団の活動範囲を「世界防災フォーラム事務局機能」だけでなく、財団主催の「World Bosai Walk, Tohoku+10」のような活動に広げていくことに合わせ、WEBサイトの刷新や財団紹介のためのパンフレット作成など財団知名度向上のための活動を強化する。

以 上